

産農政第957号
令和7年11月27日

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

山武市長 松下 浩明

市町村名 (市町村コード)	山武市 (122378)
地域名 (地域内農業集落名)	緑海地区 (宿・関・北中谷・小松岡・木戸岡・木戸浜・小松浜・中谷下・宿之下・関之下・井之内浜・井之内岡・六区)
協議の結果を取りまとめた年月日	令和7年11月27日 (第2回)

注1：「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2：「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

- ・荒れた畠が増え、困っている。畠の中に竹やつる草が増えると、手が付けられなくなる。
- ・耕作放棄地の水路の泥汚れがひどい。
- ・荒れた土地をどうするかが課題であり、機械に頼らざるを得ない。
- ・部落の世帯が減少し、農家は一軒残るかどうか。
- ・農業は利益が出ないので、後継者がおらず、仮にいても、経営主と後継者で考え方方に違いが生じている。
- ・肥料、資材の価格が高騰している。
- ・耕作放棄地に有害鳥獣が住みつき、悪循環となっている。
- ・ジャンボタニシの被害が増え、葉も高額なので、困る。
- ・農薬散布に対し、ラジコンヘリの音がうるさいと苦情がある。
- ・田んぼが広がるエリアに畠が点在しているので、(畠)の集約が難しい。

(2) 地域における農業の将来の在り方

- ・スマート農業を推進し、ドローンを活用した農薬散布の実施。(ラジコンヘリより騒音が少ないので)
- ・スマート農業の推進には、アンテナが必要になるが、アンテナ1基では14~15軒しかカバーできないので、多くのアンテナが必要となるが、価格もメーカーによって異なるので、よく検討する必要がある。
- ・畠の耕作放棄地を減らすためにも、利益があり、機械化ができる作物を栽培できれば、耕作者も増えるのでは。(意見)

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	542.2 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	542.2 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積) 【任意記載事項】	ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方 (範囲は、別添地図のとおり)



注：区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1) 農用地の集積、集約化の方針	
・水田は引き受け手があるので、集約はできると思うが、 畠は引き受け手がいない。	・この地区では、かつて土地改良で畠を多めにしたが、今 ではそのことが仇となってしまった。(意見)
・水田で条件が良ければ、引き受けてもよい。	・地区での話し合いはなく、若手もこの会議に集まらない。(意見)
(2) 農地中間管理機構の活用方針	
・現在、農地中間管理機構を活用しているので、今後も継続する。	
・人に貸すと、何に使われるか分からいので、警戒して農地貸借に承諾印を押さない人もいる。	
(3) 基盤整備事業への取組方針	
・以前に実施した土地改良事業の負担金を支払っているのに、新たに土地事業を実施し、更に負担金を増やすこと になるので、皆反対すると思うので、実施したくない。	
(4) 多様な経営体の確保・育成の取組方針	
・きちんと農地を管理して、耕作してくれる人に入ってきてほしい。	
・故郷の良さをどう伝えていくかが大事になる。(意見)	
(5) 農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針	

以下任意記載事項（地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください）

<input checked="" type="checkbox"/>	①鳥獣被害防止対策	<input type="checkbox"/>	②有機・減農薬・減肥料	<input checked="" type="checkbox"/>	③スマート農業	<input type="checkbox"/>	④畠地化・輸出等	<input type="checkbox"/>	⑤果樹等
	⑥燃料・資源作物等		⑦保全・管理等		⑧農業用施設		⑨耕畜連携等	<input checked="" type="checkbox"/>	⑩その他

【選択した上記の取組方針】

①山武市有害鳥獣駆除隊による駆除の実施及び、被害防止柵(電気柵)の購入設置に対する補助を実施しているの
で、周知を図ることにより、田畠への防除を進めていく。
③スマート農業を推進し、ドローンによる農薬散布、GPSを活用した無人トラクターによる耕作ができるよう、アンテナ
設置を検討していく。
⑩利益のできる作物を関係機関で協力し、探してもらうことはできないか。(意見)